

P19

濾胞性歯嚢胞の一症例

○久芳陽一

くば小児歯科医院・福岡市

【緒言】小児における歯原性嚢胞のうち、濾胞性歯嚢胞は発生頻度が比較的高く、しばしば日常臨床でも遭遇する。今回演者は10歳男児の下顎に発生した濾胞性歯嚢胞に対し開窓療法を行い良好な結果が得られ、永久歯列完成まで経過観察を行った症例を経験したので報告する。

【症例】患者：10歳1か月男児 主訴：顔が腫れている 現病歴：1週間位前から顔が腫れているのに気がついた 現症：下顎左側第二乳臼歯に打診痛、動揺、また同部頬側歯肉に膨隆を認め、羊皮紙様感を触知した レントゲン所見：下顎左側第二小臼歯歯胚を内部に含む単房性の透過像を認めた 処置および経過：福岡歯科大学医科歯科総合病院口腔外科へ処置を依頼。濾胞性歯嚢胞の臨床診断のもと、局所麻酔下にて開窓療法を行った。数日間のドレーン交換後オブチュレーターを装着した。しかし抜歯窩が閉鎖してきたのでリングアーチへ変更し、下顎左側第二小臼歯を歯列に誘導し現在経過観察中である。

【考察】本疾患の治療法としては副腔形成を行う Partch I 法や嚢胞を全摘出する Partch II 法が選択される。学童期には、嚢胞内の永久歯歯胚の保存を図るため開窓療法が適応となる。当院ではこのような外科的処置が不可能なため、大学病院との連携の必要性を痛感した。また発生原因は、歯胚の上皮組織、特にエナメル器の発育異常による嚢胞と言われているが、乳臼歯への不適切な根管治療が原因で永久歯歯胚の位置異常と炎症性濾胞性歯嚢胞を生じた症例¹⁾もあることから、乳歯の歯内療法を行った場合は、永久歯交換まで定期的な口腔内管理の重要性が示唆された。

【参考文献】1) 久芳陽一ほか：乳歯根尖性歯周炎により炎症性濾胞性歯嚢胞が発生した2症例.小児歯誌,29,619-625.1991.

P20

外傷歯に Apexification を施して

長期経過観察を行った一症例

○河野美佐、阿部亜美、鶴田勝久、馬場篤子、
本川 渉 福岡歯大・成育小児歯

【緒言】幼若永久歯は歯髓腔が大きく、しかも根尖が未完成である。根尖孔が大きく漏斗状を呈し、創傷や歯髓炎に対する治癒能力に優れている反面、抜髄や根管充填処置は困難で予後も不良となりやすい。今回演者らは、外傷後不適切な根管治療を施されたために根尖病巣を生じた歯に対して再治療を行い、良好な結果が得られ14年にわたる長期経過観察を行った症例を経験したので報告する。

【症例】患者：12歳4か月女子 主訴：前歯色が気になる 現病歴：小学生低学年のころ、前歯を打って根管治療を行った既往がある。1か月頃から前歯が動揺してきたので近医を受診したら歯を抜かななくてはならないと言われた為紹介にて来院 現症：上顎左側中切歯は変色し、打診痛、動揺、根尖部の圧痛を認めた レントゲン所見：上顎左側中切歯根尖部に小豆大の透過像を認めた 処置および経過：直ちに Apexification を行った。根管貼薬には Vitapex®(ネオ製薬工業株式会社製)を2~4か月毎交換し、初診から約1年5か月後にアピカルバリアーの形成を認め根管充填を行った。初診から14年経過した現在も特に異常は認められない。

【考察】幼若永久歯の感染根管処置では、Frank テクニックを基本術式とした Apexification により根尖部の硬組織形成を促し、これによって根尖部の閉鎖を促す方法が一般的である。貼薬剤として主に水酸化カルシウム系の糊剤根管充填剤が用いられ良好な結果をもたらしており、更にこの糊剤の交換間隔が短いほど根尖孔閉鎖が早いとの報告もある¹⁾。近年、MTA による短期間の根管治療も可能となってきたが、高価で保険適応外材料なため新しい材料の開発が待たれる。

【参考文献】1) 柏村晴子ら：小児歯誌,46:347-353, 2008